



校訓「自主・協調・明朗」平成28年3月10日

日新中学校だより

尼崎市立日新中学校長 尾知山光郎

皆勤賞の表彰をしました

卒業を控えた3年生のうち、入学以来3月9日までに、欠席・遅刻・早退が一日もなかった次の19名の生徒の努力を讃え、9日に表彰しました。皆勤は、本人の努力はもちろんですが、保護者の相当なご協力がなくては達成できません。敬意を表します。

荒田裕也、大谷理子、大西肇、倉本愛子、野口陽菜、福永大貴、前田初香、田原凜太郎、日高希、平光伴治、眞鍋佳奈未、芝中一哉、原義人、枚田歩夏、藤村伸之介、次山恵菜、片井美陽、黒田巨太郎、小林純奈

平成27年度の調査から見た 本校生徒の生活・学力・体力等の状況

本校生徒の生活実態、学力・学習状況、体力・運動能力・運動習慣等の状況についてお知らせします。これは、平成27年度に行った「全国学力・学習状況調査」(中学校は3年生対象)、「尼崎市立小・中学校の学力・生活実態調査」(中学校は1、2年生対象)、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(中学校は2年生対象)の結果を基に、生徒の生活・学習・運動等の状況についてまとめたものです。

1 「全国学力・学習状況調査」(3年対象、4月)から

- ・国語、数学とも、知識を問うA問題、活用を問うB問題の正答数(率)が全国平均を上回る。
 - ・国語A・数学Aで8割以上正答者率、国語B・数学Bで5~8割正答者率が全国平均より高い。
 - ・理科でも、5割~8割正答者率が全国平均より高い。
- 生活実態の一部を抜粋して紹介します。「あてはまる」と「まああてはまる」の合計で、単位は%。
()内は昨年度。
- ・「学校の授業時間以外に、平日に勉強する」時間が1時間以上 64(54) 全国平均68(68)。
 - ・「土日など学校が休みの日に勉強する」時間が1時間以上 55(42) 全国平均69(66)。
 - ・「家で、自分で計画を立てて勉強している」44(22) 全国平均49(47)。
 - ・「3時間以上テレビやビデオ・DVDを観る」33(39) 全国平均31(31)。
 - ・「2時間以上テレビやネットのゲームをする」31(45) 全国平均36(35)。
 - ・「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」67(44) 全国平均は69(68)。
 - ・「自分によいところがあると思う」70(49) 全国平均68(67)。
 - ・「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする」76(69) 全国平均74(73)。
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」95(85) 全国平均94(94)。

2 「尼崎市立小・中学校学力・生活実態調査」(1、2年対象、4月実施)から

- ・「朝食を毎日食べる」1年約82%、2年約79%。
- ・「家で30分以上読書(まんが・雑誌を除く)する」1年34%、2年25%。
- ・「メールやインターネットをする時間が2時間以上」1年35%、2年49%。
- ・「SNS(フェイスブック、ライン、ツイッターなど)を2時間以上利用する」1年23%、2年33%。
- ・「宿題をきちんとする」1年96%、2年87%。
- ・「塾に通っている」1年30%、2年44%。
- ・「学校の授業以外(塾を含む)で1時間以上勉強する」1年39%、2年48%。
- ・「家の人に言われなくても自分からすすんで勉強する」1年54%、2年43%。
- ・「家で勉強していてわからないことがあったら自分でやり方を調べる」1年64%、2年55%。
- ・「学校が好き」1年88%、2年85%。
- ・「チャイムが鳴るとすぐに授業が始まる」1年95%、2年93%。
- ・「授業中に自分の考えを発表する機会が与えられている」1年78%、2年81%。
- ・「学級にがんばったことを認めてくれる雰囲気がある」1年73%、2年77%。
- ・「落ち着いて勉強できる雰囲気がある」1年は82%、2年は75%。
- ・「学級にいじめを許さない雰囲気がある」1年73%、2年で78%。
- ・1年で「自分の気持ちをわかってくれる」「友だちがいる」87%、「家族」69%、「担任」62%。
- ・2年で「自分の気持ちをわかってくれる」「友だちがいる」87%、「家族」71%、「担任」70%。
- ・「尊敬する人がいる」1年73%、2年73%。
- ・1年：国語得点率61%(全国平均65)：社会59(65)：数学57(60)：理科62(68)
- ・2年：国語得点率49%(国平均55)：社会57(57)：数学49(55)：理科54(62)：英語60(68)

3 「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(2年対象、5月実施)から

- ・体格について、「肥満傾向」は軽度まで含めて、男子8%(全国平均8%)、女子16%(全国7%)。
- ・「やせ」ている男子4%(全国2%)、女子1%(全国4%)。
- ・「体力・運動能力」の総合評価では、男子A+B=8%(全国33%)、女子A+B=24%(60%)。
- ・男子は「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「持久走」で全国の82~84%程度と低い。
- ・女子は「上体起こし」「反復横跳び」「持久走」で、全国の80~86%程度と低い。
- ・男女とも、「握力」についてのみ、全国以上(103~104%)。
- ・「運動が好き」男子86%(全国90%)、女子64%(全国79%)。
- ・男子の65%が運動部(全国78%)に、15%が地域のスポーツクラブ(全国15%)に所属。
- ・女子の37%(全国57%)が運動部に、5%が地域のスポーツクラブ(全国8%)に所属。
- ・「朝食を毎日食べる」男子71%(全国平均83%)、女子67%(全国81%)。
- ・「携帯電話・スマートフォンの使用時間が3時間以上」男子27%(全国13%)、女子40%(20%)。

4 まとめ

- ・大半の生徒は交通ルールを守って安全に登下校している。学校でも規則を守っている。
- ・教科を問わず、学力の基礎基本が定着していない生徒が、特に1年・2年に多い。
- ・3年は、全般的に学力が比較的高いが、満点に近い高得点者はほとんどいない。
- ・宿題はするが、自主的・計画的に家庭学習に取り組む習慣が身につけていない生徒が多い。
- ・ゲームや電話・メール等に長時間費やす習慣の生徒が多く、家庭学習の阻害要因と考えられる。
- ・運動時間の短い生徒が多く、総じて体力・運動能力が標準より低い。
- ・食習慣は健康・体力及び学力の向上に重要な要因で、朝食等食事の習慣と栄養バランスが重要。

平成27年度 学校評価（自己評価） 【概要】

平成27年度の学校評価（自己評価）の概要をお知らせします。表面の「本校生徒の生活・学力・体力等の状況」などを基に、生徒、保護者及び地域（関係小学校6年生保護者）ならびに教職員対象アンケートを参考にして、学校としての「自己評価」を作成しました。項目は、市教育委員会の示した「重点取組項目」に即して本校で定めた「重点取組項目」ごとに、「取組と成果」「課題と改善策」としています。

この「自己評価」について学校関係者評価委員に評価していただいた後、市教育委員会に報告します。

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

取組と成果

教員が校内研修会や教科等研究会で学んだり、授業改善アドバイザーの助言を受けたりして、授業改善を図るとともに、生徒の自主学習を促進するため、放課後等の自主学習「チャレンジ」の取組にeラーニングを取り入れ、また、「日新検定」を導入した。3年生の得点平均が全国平均を超え、市の最高水準に達した。特別な支援を要する生徒の実態把握や情報共有のための会議を重ね理解が進むとともに、通常の学級の生徒との交流や学習の円滑化が図られ、特別支援学級生徒については、ほとんど希望どおりの進学を達成できる。

課題と改善策

2年・1年生徒の学力は、小学校での学習事項の定着が不十分で、特に「ことばの力」の課題が大きい。キャリア教育を推進し、生徒が進路を意識して進学できるための学力の定着が必要である。教育課程の工夫とともに、放課後学習や家庭学習等の自主学習の習慣形成に取り組む必要がある。通常の学級に在籍する生徒の問題行動がくり返されるものについては、特別な支援を要する。保護者との連携を進め、専門機関とも連携した対策を講じる必要がある。個別の指導計画・教育支援計画を作成（引継ぎ）が求められる。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

取組と成果

学級担任に任せない、組織的な道德教育を進めるとともに、規律を重視し「時を守り、場を清め、礼を正す」生活指導を進め、教員が生徒とふれあうように努めることにより、校内秩序を保って、問題行動がかなり未然に防止できている。

計画性・自律性を重視し、基本的な生活習慣の確立を図る指導、集団生活の規律を重んじ、規範意識を高める指導と併せ、教育相談と別室学習を充実させることによって、長期欠席やいじめ等の問題解決を図るとともに、生きることへの希望を持たせる取組を進めている。

高校説明会やトライやる・ウィーク、福祉体験活動等、進路や「生き方」を考えさせるキャリア教育を展開し、将来のことを真剣に考える生徒が増え、学力向上への意欲も高まった。

課題と改善策

良好な人間関係を築く力を育てる特別活動（集団づくり）や自尊感情を高める活動を充実する必要がある。人権教育や学級指導の研修を行うなど、教員指導力を高める工夫が必要である。生徒が自身の将来を見通し、学力を高める努力を促すキャリア教育を充実する必要がある。

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

取組と成果

中学校弁当の販売、家庭科や「総合的な学習の時間」等での食育を通して食生活の改善を図るとともに、始業前指導や生徒会による風紀・美化・保健に関する啓発を行い、健康的な生活習慣の形成を促進した。

体育の授業や体育大会・球技大会等の体育的行事を通して体力・運動能力の向上を図るとともに、女子ソフ

トテニス部創設等、スポーツ振興を図り、個人で全国大会へ、複数の部で県大会出場の好成績を収めた。

課題と改善策

病気（体調不良等）を理由とする欠席者、学校活動中に負傷する生徒、体力・運動能力において全国水準に達しない生徒が多い。

家庭の協力を得て、望ましい食習慣をはじめ、保健習慣・運動習慣を身に付けるよう指導する必要がある。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

取組と成果

通学路の見回りや踏切横断指導及び県警等の協力による自転車交通安全教室ならびに「自転車事故賠償責任保険」加入状況調べを行ったり、校内設備の安全点検を定期的及び随時行ったりして、事故防止に努めており、登下校中の交通事故、生命に関わる事故・事件は皆無に近い。年間2回（6月、1月）防災学習と避難訓練を行っている。

課題と改善策

校内で負傷に至る事故が頻繁に起きている。防災及び安全に係る指導は一通り取り組んではいるが、日常生活上での負傷防止に対する意識を高める指導や大げがをしにくい体づくりが必要である。

自転車での事故がなくなるので、交通安全指導・啓発を継続する必要がある。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

取組と成果

いじめ防止基本方針に則り認知した事案を解決するとともに、学級・学習への適応感を調べる調査や怒りの感情理解を生徒指導に活かす研修を行い、いじめ・不登校・生徒間暴力等の問題行動の防止・早期対応に取り組んだ。また、小学生の保護者対象のアンケートを学校評価に活用した。保護者・地域と連携した生徒指導の結果も評価され、過去3年間の地域の小学校からの入学率が約90%に高まっている。

地域人材を、学校評議員、図書ボランティア、運動部技術指導者に活用するとともに、地域団体・施設の協力を得て学校だよりを配布するなど、情報発信に努めた。オープンスクール参加者が約750名に上った。

課題と改善策

公立校としての信頼を得られるよう、授業改善や補充的指導に取り組むとともに、教員一人ひとりが人権感覚を磨き言動に留意する。指導力を高める研修を行うとともに組織として学校運営の質を高める必要がある。学校・学級適応が困難な生徒に対しより良い対応ができるよう、学級活動の工夫や補充的指導を進める。部活動の振興・充実を図る必要がある。

「教育目標」と「研究テーマ」に関する部分は省略します

日新中の教育に対する評価 ～学校評価「保護者アンケート」から～

- ・「学校のきまりや社会のルールを守れるよう指導している」87%
- ・「命の大切さや人権などについて学んでいる（指導している）」74%
- ・「安全教育に取り組み、校内や登下校の安全確保を図っている」73%
- ・「授業や運動部活動で体力と健康の向上に努めている」72%
- ・「友だちを大切にし、いじめなどを許さないクラス・学校づくりに努めている」68%
- ・「教員は、授業の工夫・改善をしている」61%
- ・「子どものことで相談しやすい」60%
- ・「いじめなどの問題行動に対して素早く組織的に動いて解決を図っている」56%
- ・「保護者の期待や願いに応えている」56%
- ・「進路についての情報や指導は分かりやすい」49%